



THE ROTARY CLUB OF NAGOYA OSU
名古屋大須ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

No.1192

<本年度会長方針>

大きな和を築こう

承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 鬼頭茂成 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹事 岡村隆徳 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org



第1400回例会

R理解推進月間

平成25年1月24日(木)
於 名古屋東急ホテル

会員 64名

出席計算数

57名中43名出席
出席率75・44%
前々回出席率87・93%

例会プログラム

- ★日比野親睦活動委員長
・渥美RC菜の花・桜まつり例会
及び春の家族旅行例会
- ★大原新世代奉仕委員長
・受入青少年交換学生ホストファミリー懇談会・ケイリー誕生会

ロータリーソング

「それでこそロータリー」

指揮者 吉田 恵一
ピアノ伴奏 富板 玲子

ゲスト

米山記念奨学生 周 玮
受入青少年交換学生 キャサリン・ワームス

ニコボックス

馬場社長卓話よろしくお願ひします。私事ですが、1月21日に男子の孫が2人生まれましました。

馬場昭次さん卓話よろしくお願ひします。
鬼頭 茂成
岡村 隆徳
高木 政義

本年も宜しくお願ひします。

本日家内の誕生日です。年々若くなりませぬ?! 大原 敏正
岩崎さんあしがういぎいます。春日井和良
30周年事業の準備順調に進んでいます。木村 光徳
風邪をひき、入院してしまいました。今日から復活です。林 順治

会長挨拶

みなさんこんにちは。

今日はトリニティ工業株式会社の馬場社長に卓話をさせていただきました。馬場社長は、トヨタ自動車の、ニュージラード、オーストラリア、南アフリカの工場を立ち上げられた方です。大変楽しみにしています。よろしくお願ひします。

今日は、名古屋市、愛知県の文化振興についてお話をします。

名古屋市も愛知県もそれぞれ文化振興事業団という外郭団体を持っています。名古屋市は市民会館音楽プラザ、アートピアホールを始め各区に文化小劇場を設置して



地域の文化活動に貢献しています。愛知県は芸術文化センターに、美術館の他、大ホール、コンサートホール、小ホールを持ち、それぞれで、自主企画や主催公演を行っています。よく、箱物行政と言われることがありますが、これは地方の語で、名古屋市にはあたりません。名古屋ではこのような文化施設は大変良く利用されています。県はコンサートホールのオルガンを使う企画や、オペラの自主公演など毎年計画を立てて行っています。また、名古屋市は毎年2月に名古屋市文化振興事業団の自主企画の公演を行っています。ミュージカルやオペラ、オペレッタなどの公演です。今年は、ヨハン・シュトラウスのオペレッタ「こつもり」が演奏されます。役はすべてオーディションで決められ、日本語の公演となります。今回は主役のアイゼンシュタインを、オオスシンガーズを指導していただいている井原義則先生が演じられます。曲はワルツ王と言われたヨハン・シュトラウスの作ですので、ウィーンナールツが随所に入った大変すばらしい曲で、彼の代表作といわれるものです。2月22日23日24日の3日間5公演です。是非この機会にお出かけください。ウインナーワルツを楽しみながら、名古屋の音楽文化の豊かさを感じて下さるようお願いいたします。

卓話

「南半球の旧英連邦国を渡り歩いて」

トリニティ工業株式会社 取締役社長 馬場 昭次さん

1. はじめに

本日は名古屋大須RC卓話にお招き頂き、鬼頭会長はじめ事務局の皆さまに感謝申し上げます。

鬼頭会長から昨年末にお話を頂いた次第ですので、皆さまに役に立つ、或いは興味を持って頂ける話になるか、はなはだ心配ですが、私はトヨタ自動車に入社して37年間務め、その間3度の海外出向も、南半球の旧英連邦国のニュージラード・オーストラリア・南アフリカを渡り歩くという経験を持ちましたので、その3カ国を比較しながら大英帝国が植民地支配・連邦国建設にどう関わってきたかを考察したいと思っております。



2. 先住民族について

まずそれぞれの国の先住民族についてお話をしたいと思います。

ニュージールランド(NZ)は面積は日本の2/3。人口は400万人と小さな国ですが、農業・酪農が盛んで自然豊かな風光明媚な所で日本の観光客も多いです。

さてその先住民族ですが、12、13世紀に大型方舟に乗り、海を渡ってきたポリネシア系のマオリ人で体も大きく勇猛で文化程度も高い民族です。

オーストラリア(AU)は面積は日本の21倍、人口は2,200万人と資源も豊富な先進国であり、自然豊かな美しい所です。

その先住民族は3万年以上も前から大陸に住むアボリジニという狩猟民族であり、農耕はせず、18世紀後半でも石器時代ながらの生活をしていました。このような生活が続けられた理由としては、この大陸に虎やライオンなどの肉食獣がいなかったこと、この大陸に十分な食料があったことが挙げられます。

南アフリカ(SA)は面積は日本の4倍、人口は5,000万人の資源国です。その先住民族はアフリカ大陸という地続きの大陸です。多くの部族が入り混じって、狩猟民のサン人・牧畜民のコイコイ人がルーツですが、3、4世紀に南下してきた農耕民のバン

ドウ系アフリカ人等で形成されてきました。彼らが現在の南アフリカの人口の8割を占める直接の祖先になります。

3. ヨーロッパ人の到来

17世紀になるとオランダ人がそれぞれの国に時を同じくしてやってきます。まず、ニュージールランド、オーストラリアですが、この両国は同一人物によって発見され、そして占領されますので、まとめて話をします。

1642年、オランダ人のタスマンが未知の南方大陸を探るためジャワから南下し東回りでオーストラリアのタスマニア島を発見、その後更に東へ航海しニュージールランドの南島を発見したのが最初と記録されています。

しかしその後約100年以上両国でもヨーロッパから遠く往来はなかったと思われま

す。1768年イギリス人シエーム・クックが西回りで南アメリカの南端を回り、タヒチに到着。さらに西へ航海しニュージールランドに上陸しましたが、マオリの攻撃にあい退却。その後さらに西へ行きオーストラリアのシドニーへ上陸。イギリス国旗を立て、領有宣言を行いました。

同時期1776年にアメリカがイギリスから独立。それまで囚人の受け皿となっていたアメリカに

替わる新しい囚人の収容先を見つめる必要があり、選ばれたのがオーストラリアでした。

1788年に最初の囚人船がシドニーに到着。これがオーストラリアが囚人の国だと言われるルーツです。当時イギリスでは産業革命が進み、都市に仕事にあぶれた貧しい人々が増えていた為、たいした罪でなくても囚人として投獄されていたとも言われています。

また一方、ニュージールランドではクック上陸後、イギリスからの移民が徐々に増え、1840年イギリス政府から派遣されたウィリアムホブソンは、マオリの酋長から自発的に彼らの土地をイギリスに譲渡するよう交渉せよとの命令を受け、苦勞の末ワイタンギ条約が締結されました。

条約の基本は、主権をイギリス国王に譲渡。マオリの土地の所有権は保障。ただし売買についてはイギリス国王に先買権という大変不平等なものでありました。

その後も土地売買をめぐる白人とマオリの紛争は続き、ようやく1881年に和平交渉が成立したものの、多くの土地を奪われたマオリは隔離政策により、保留地へ移動させられていきます。

このようにイギリス人が先住民を支配していく課程で取られる基本政策は、保留地・保護区への隔離とキリスト教の布教だと言つ事も出来ます。

次に南アフリカのヨーロッパ人の到来を考えてみます。この地もオーストラリア・ニュージールランド同様1652年にオランダ東インド会社の命を受け、ファンリーベックが南端のケープタウンに上陸し、補給の基地を造りました。最初の上陸はもっと前の15世紀後半のポルトガルの船隊ではありましたが。

その後オランダから入植者が増え、1770年代に白人農民の土地略奪が本格化していく中、1795年にイギリスがオランダからケープの植民地の支配権を奪つたという事件が起きました。これはオランダ本国がフランスに占領された為、イギリスはフランスによるケープタウン支配を未然に防ごう

としたと言われています。

1820年には、5,000人ものイギリス移民が到着したと記録されています。

南アフリカにやってきた新参者のイギリス人はオランダ系移民の末裔たち(アフリカーナと呼ぶ)と容易に混じり合いませんでした。海洋国家オランダ本国は没落し、アフリカーナは本国との絆を失われる一方でした。

こうしてアフリカーナの軍団は1930年代に内陸部への移動を開始しました。この背景にはイギリス人が奴隷制を廃止したことへの反発があったとされます。これがグレートトレックという名で知られる集団移動軍隊で、行く先々でアフリカ人と戦い、勢力・土地を拡大していきました。

ヨーロッパに帰るべき祖国を持たないアフリカーナが冒険的な行動に出ることで、その後、世界で豊富な植民地支配の技術を持ったイギリス人が、アフリカーナの行動の後始末をしながら白人支配を永続化する為の洗練された制度を築いたとも言えます。

4. ヨーロッパのフット

連邦国家の誕生

1850年代にオーストラリア・ニュージールランドで次々に金鉱が発見され、南アフリカでも30年ほど遅れて1880年代に金鉱



が発見され、ゴールドラッシュが始まりました。



オーストラリアとニュージーランドでは移民が増加しますが、それでも不足していた為、中国人が多く含まれていました。両国でもゴールドラッシュは長くは続かず、採掘もより深く掘り進む必要があり、採算が課題となり、賃金の安い中国人が多く雇用されていたという事でした。

このような状況で金鉱に働く白人労働者が危機感をつのらせ中国人排斥運動につながり、またこのことが各地域の白人の連帯感を強め、連邦政府の樹立につながりました。1901年にAU連邦、1907年にニュージーランド連邦が誕生します。両連邦がまもなくイギリスのために貢献する機会がやってくるのです。

1899年に南アフリカで始まったボーア戦争、1914年にヨーロッパの第1次世界大戦に兵を派遣しイギリスを助けて奮戦しました。その中で兵を送り出す市長の演説が残っています。植民地の貢献は、ヨーロッパ諸国にどのようにならなければならないかを示すことである。大英帝国の若者達は血を流して来た。我々が今日あるのは彼

らの流した血のおかげなのだ」というものです。何となく日本人的発想だと感じるのは私だけでしょうか？

南アフリカでは先ほど話をした金鉱が発見された場所がアフリカーナの支配するヨハネスバーグ地方であったこともあり、ケープ地方を支配するイギリス人との間でボーア戦争が勃発。1902年にイギリス軍が勝利をしたが不安定な状況が続いたこともあり、アフリカーナも各地で暴動を起こして来た為、白人同士「内輪もめ」をしている場合ではないと言ったことで1910年連邦が成立しました。

新しい南アフリカ連邦は一握りの白人が支配する国民なき国家でありました。その当時に約70%のいわゆるアフリカーナ及びカラードと呼ばれるその混血児がいたと推定され、その一握りの白人が人種隔離政策を強め、やがて悪名高いアパルトヘイト政策へ移行していくことになるのです。

5. イギリスが残した財産

英国人は行く先々で故国イギリスのスポーツを持ち込んでいます。スポーツはイギリス最大の無形の輸出品であり、最も息の長い財産となったと言われています。

例えば、ラグビー・ゴルフ・クリケット・競馬等々この国でもこれらの施設は整備されていて、

生活に結びついて楽しまれていてます。

「ここでラグビーについて少し話をしたいと思います。」

ニュージーランドで最も人気のあるスポーツは間違いなくラグビーです。皆さんもオールブラックスという名前を聞いた事があるかと思いますが、多くのマオリの有名選手を輩出し世界一に何度も輝きました。このオールブラックスが戦前のマオリの踊り「ハッカ」は印象深いでしょう。この勇敢なマオリを制圧することは難しいだろうと思わざるを得ません。現在、マオリは完全に市民権を得て、混血化も進み、ニュージーランドの全人口の14%にも達しています。

南アフリカでは1994年に27年間の獄中生活を経て、ネルソン・マンデラが新生南アフリカの初代大統領になり、悪名高いアパルトヘイトを終わらせ、黒人も白人もすべての南アフリカーナは平等で平和的な虹の国を建設していく事を宣言しました。そんな中1995年にラグビーのワールドカップが南アフリカで開催され、南アフリカチームスプリングボックスが世界の表舞台に戻ってきて見事に優勝するという快挙があり、マンデラ大統領の満面の笑みを記憶している方もおられると思います。

この実話を2009年にあのクリント・イーストウッド監督が

「インビクタス」負けざる者たち」という映画で見事に描いています。南アフリカはこれからも黒人と白人が皆一緒になってアフリカーナとして新たな国家建設に乗り出したところであり、これからもチャレンジが続きますが2010年にはサッカーのワールドカップも見事成功させ、スポーツの果たす役割は大きいと感じています。



もう一つはイギリス人は都市計画の天才であると言った事です。道路を設備し公園を造り、植物園を造り街に線をつまく配置し、本当に美しい街を造っています。

最後に私が駐在したニュージーランドのウェリントン、オーストラリアのメルボルン、南アフリカのダーバン。どれも美しい海岸があり、緑豊かできれいな公園があり、植物園が有り道路が整備され、ゴルフ場も多く競馬場も整備され、郊外にでは自然が豊かで本当に良い所です。若干治安が不安な所もありますが...



「年男の忙しい毎日」 杉浦 令淑さん

年男年女年男所見 (続き)

昨年の敬老の日、「松茸」を我が名古屋大須ロータリークラブからいただきました。松茸は確か2回目と記憶しています。還暦から一回りした今年は巳年、年男と云うことになりました。

大須ロータリークラブに入会して丁度20年となりました。入会時の時の卓話は、さつき盆栽だっと思ひます。三十歳で始めたさつき盆栽も四十年たった2年前、今ではなぜか家庭菜園になりました。どうして野菜の時間か？と言えば、さつきは食べられないけど野菜は食べられると、まことに単純な理由です。盆栽には申し訳ないけれども、自分で作る野菜はスーパーの野菜とは勝負になりませぬ、これが又美味しいんです。

幸い近所に休耕地が有って、お借りした事が始まりです。定番の白菜、キャベツ、だいこん、人参、ナスにキュウリ、結構忙しい毎日です。晴天が続けば畑の水やり、雨が続けば作業もできず、草が育つばかりで困ったものです。

特に路地で作るイチゴは手が掛かります。美味しいものは鳥も良く知っています。収穫直前に食い荒らされます。特にカラスは何でもつくギャングです。なかなか



上手く出来ません！
が、それでも作るイチゴは「ももごちう」です。

大美で果肉は真っ白、とても甘く美味しいです。徳島県佐那河内村で生産されている特産品です。大変傷みやすい品種で生産量も少なく関西地方の一部でしか販売されていません。通販で早めに注文すれば手に入るようになります。しかし結構高いようです。

イチゴ以外で今年作ってみようと思っているものがあります。それは北海道当麻町で生産されている特産品の「でんすけスイカ」です。甘さといい、姿といい強烈な存在感のすいかです。南米原産のタヒチと云う品種ですが、でんすけすいかと名付けられて当麻町のブランドとなったものです。とても美味しいスイカですが空洞がでやすい、非常に「アリケート」な品種です。今年の夏は「でんすけすいか」に忙しい夏に成りそうです。好きな「ゴルフ」もままならず困ったものです・・・

■米山記念奨学生挨拶

(1月17日例会)

周 瑛

「この日は、米山奨学生さんの周いです。遅くなりましたが、あけましておめでとうございます。去年は本当の色々とお世話になりました。

今年は、皆さんにとって素晴らしい年になるように祈っております。さて、先週に卒業論文を提出しました。今回の卒業論文の執筆にあたって、いろいろ大変な思い出があります。まずは今までの研究は少なからずチームで取組んでいたが、卒業論文は個人フレイドでやらないといけないので、自分の学問や能力に大きなチャレンジでした。特に、大量な日本語の文献を読み、それを自分の言葉で整理してさらに日本語で書くことは私にとって大変な作業でした。何度も徹夜している中に自分の日本語はもっと上達させないといけないと実感した。

そして、私にとって一番大変だったのは、指導教員が転勤のため途中から指導が受けられなくなり、方向が見つけられないまま自分で模索しなければならなかったことです。その間に何度も壁にぶつかり、もつこれ以上進まないという気持ちが折れたが、最後まで頑張りたいと自分に言い聞かせ、図書館へ行ってきました。その結果、ようやく78ページの論文を書き上げたことができた。

振り返ってみれば、この前の大変さがなければ、今のような達成感を味わうことができなかったかもしれないです。完璧な論文を書き上げたわけではないですが、自分の努力を重ねてベストを尽くす



たので、結果はともあれやりがいを感じたと思います。また、このチャレンジを経て、自分が困難に向かって一層強くなった気がします。

このチャンスをもって、今回はご協力していただいた名古屋大須RCのみな様に本当に感謝の気持ちを申し上げます。大変忙しい中アンケートやインタビューに協力していただき、私の何度もの身勝手なお願いに暖かく速やかに対応してくれました。皆様の恩恵なしには、この卒業論文を書きあげることができなかったと思います。

まだまだ知見が甘い拙作ではありますが、ぜひ甘い目でご覧になっていただければと思います。

■受入青少年交換学生挨拶

(1月17日例会)

キャサリン・ワームス

みなさんこんにちは。明けましておめでとうございます。これまでの留学生活の報告をします。

今月で留学期間の半分です。残りところ五ヶ月です。早く時間が過ぎました。これまで楽しかった出来事を話します。

日本に入る時は本当に怖かったです。ひとりて来ました。でも空港で優しいホストファミリーとあいました。ほっとしました。

最初のオリエンテーションで十人の留学生とアウトバウンドRC OTEXにあいました。

淑徳高校に通い始めました。たくさんの方々ができました。学祭がありました。私のクラスのテーマは「キャンブル」です。体育祭がありました。私のクラスは優勝しました。ヒルウォーキングクラブと御嶽山に登りました。御在所も登りました。

学校で好きなクラスはクッキング



グでした。でも今はこのクラスは終わりました。修学旅行のとき、九州に行きました。皆と一緒に過ごして、本当に楽しかったです。

留学生のハロウィンパーティーがありました。昔のローマの服を着ました。毎週の木曜日に茶道と生け花を勉強しています。

アメリカでは「A PICTURE IS WORTH A THOUSAND WORDS」と言っています。これは日本語では、「百聞は一見にしかず」。でもこれは長い時間がかかります。

優しい人にたくさん会えて友達ができました。素晴らしい思い出ができています。毎日楽しいです。これからもありがとうございます。これからもよろしくおねがいいたします。

2月7日(木) 例会の案内

例会変更 2月9日(日)

節分例会 (休業日)

中部各口屋みらいRC共同

於 大須観音本堂下会堂

* 12時00分受付

12時30分例会開始

広報委員会

近藤宏一郎・林 富徳
杉浦 令淑・青木 靖高

*本文は、原則、頂いた原稿を転載しています。